

●「基本的な考え方」をまとめるに当たっての視点（事務局案）

◎リニア時代の当地域の将来像を具体的に「ランドデザイン」として描く中で、真に必要な（求められる）機能を改めて整理した上で、新たに施設を整備する場合の機能・規模・配置等の考え方をまとめる必要

○コンベンション施設検討の視点

<p>大都市・他地域との機能の棲み分け</p> <p>先行する大都市・他地域との競争となることを意識し、この地域の特性を活かしたコンベンションの在り方を十分に検討しておく必要</p>

○屋内体育施設検討の視点

<p>「観るスポーツ」という視点</p> <p>「するスポーツ」に加え、「観るスポーツ」という視点の必要性について検討</p>
<p>圏域外からの利用促進</p> <p>全国レベルの大会が開催できる施設とすることについての検討</p> <p>アリーナを拠点とした一流アスリート等の合宿地等、地域資源との連携による受け入れ態勢の構築検討</p>

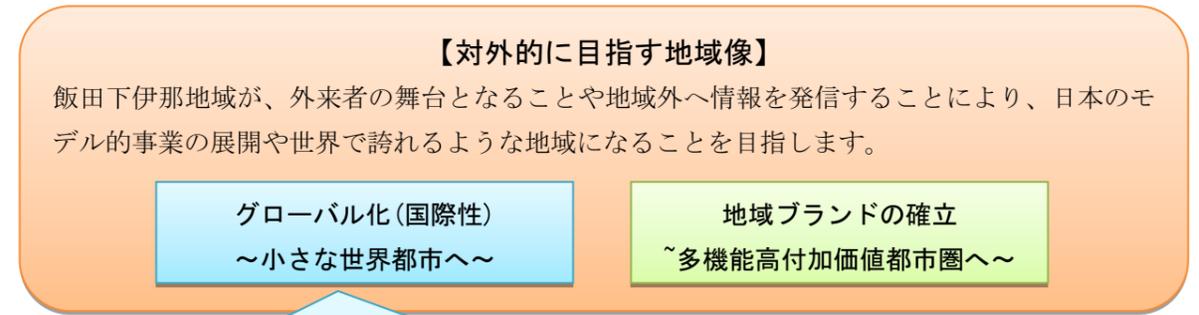
○全体に係る視点

<p>施設整備の波及効果：購買、飲食、宿泊、観光等、施設整備による波及効果を地域全体で享受できるしくみの検討</p>
<p>持続性：持続的経営のできる施設の在り方及び施設の安定的マネジメントの検討</p>

南信州地域におけるコンベンション施設及び屋内体育施設の整備に関する考え方

平成 30 年 5 月 15 日 第 2 回南信州広域連合会議

●リニア将来ビジョン（平成 22 年 11 月）から関係部分を抜粋



リニア中央新幹線の開通により大都市圏への時間距離が短縮され、中部国際空港や羽田空港、成田空港までのアクセスが格段に向上します。リニア中央新幹線の実現は、国内はもちろんのこと、海外との繋がりもこれまで以上に高まり、グローバル化を促進します。

このグローバル化を活かし、地域特有の伝統や普遍性のある文化、例えばこの地域の特徴的な文化である「人形劇」を、外からの文化と融合しネットワークを構築したり、世界からの研究加勢機能の集積など、人のつながりを大切にする風土を活かした小さな世界都市を目指します。

具体的なまちづくりの案

【生む・育てる・学ぶ】

○海外研究者の来訪の拡大

国際空港へのアクセスが圧倒的に良くなることにより、豊かな自然や文化環境などが備わるこの地域に魅力を感じ、海外からの来訪者の増加、国際会議の開催の可能性が高まることが想定されます。

【働 く】

○国際会議の舞台

観光コンベンションでは、例えば、G7やサミットのような国際会議の舞台として期待できます。この地域の「環境」の取り組みを前面に出し、リニアの時間短縮効果を活かした国際会議の誘致が必要です。

【住む・交流する】

○「世界一来てみたい都市（町）」の実現に向けて

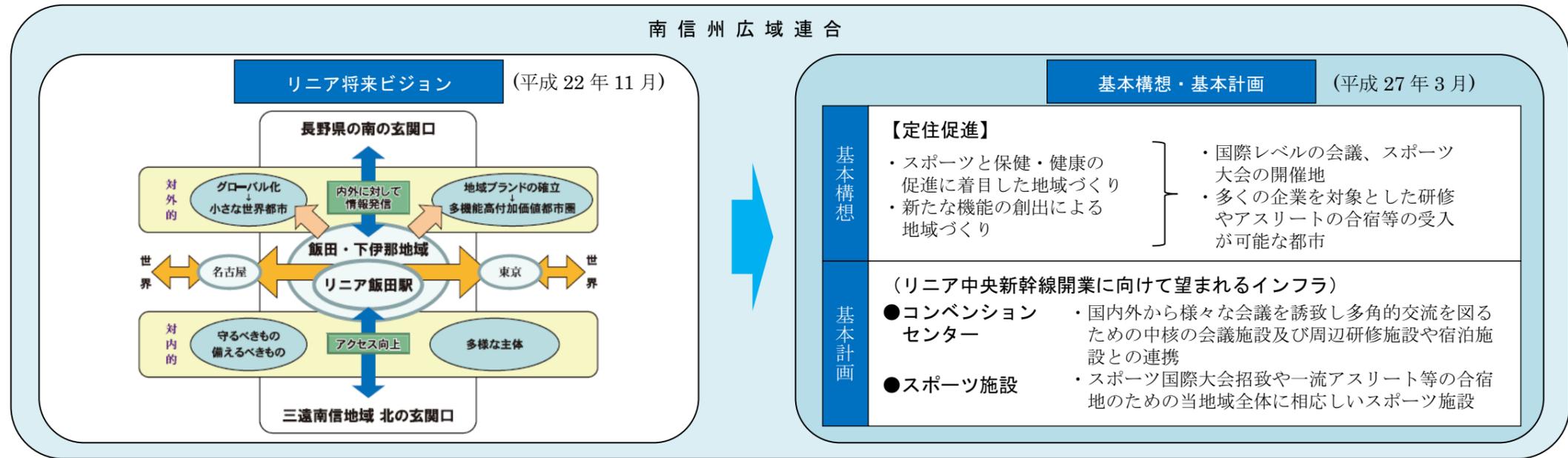
- ・国際会議のまち

リニア新幹線により我が国が必要とする国際的な機能や世界的に人が集まりやすい機能を有するようになることを最大限利用し、アルプスや天竜川など豊かな自然に囲まれた風光明媚な土地であること、民俗芸能伝承の宝庫であるといわれる高い文化性を持つ地域であることなどを PR して、様々な国際会議の積極的な誘致が必要です。例としては、小規模でも世界レベルの経済会議、環境世界都市会議、国際リニア都市会議、世界こども会議、世界丘の街サミットなどが挙げられます。

- ・スポーツ大会の世界大会開催

美しい自然環境の地域であることから、アウトドアをコンセプトにしたスポーツの世界大会の検討が必要です。国内大会では実績のある自転車や南アルプスや溪流などの自然資源を活用したトレッキング、沢登り、軽登山、マラニック、あるいは、景観を活かしたマラソンなどが考えられますが、現在の取組みをバージョンアップさせていくことで実現も可能と考えます。併せて自然生態系や環境保全のためのゾーニングやルール作り、登山ガイドの育成、山岳資源を継承していける地域活動づくりを進めることも大切です。

●コンベンション施設、アリーナ等に係る各種計画等の位置づけ



長野県

リニア活用基本構想 (平成 26 年 3 月)

2 伊那谷交流圏の実現に向けて

2-1 地域振興

- (1) リニアを活かした産業振興
- (2) 信州暮らしの魅力向上
- (3) 広域観光の推進

【方針 4】 リゾート MICE の誘致

(取組 1) MICE の誘致

- ・首都圏と中京圏との間に位置するこの地域の強みや魅力を活かし、MICE の誘致に取り組む。
- ・国際空港によって海外と結ばれている大都市圏からの移動時間が短縮されることから、国際的な会議やイベントの誘致の可能性を探る。

(取組 2) 受け入れ態勢の整備

- ・大規模な会議が開催できる施設や国内外からの来訪者が快適に滞在できるなど、受け入れ態勢の整備が必要。
- ・民間活力の利用などを含め適切な整備手法について検討する。

しあわせ信州創造プラン 2.0 (平成 30 年 3 月)

伝統と最先端が響きあう
「リニア時代」のフロンティア～南信州～

- 交流の一大拠点地域**
 - ・リニア中央新幹線長野県駅や三遠南信自動車道とのアクセス道路網、コンベンションセンター・アリーナ等の整備
 - ・MICE の誘致やインバウンド対応による国際交流、広域観光の拠点
- 地域重点政策より**
 - ・南信州地域が一体となった広域観光の推進地域連携 DMO、観光資源を有機的につないだ周遊・滞在型観光プランづくり、上伊那・木曾・三遠南信を含めた周遊モデルづくり
 - ・交流を促進するまちづくり・交通基盤整備

リニア開業を見据えたコンベンションセンター・アリーナ等の整備について、広域連合等とともに検討

伊那谷自治体会議

リニアバレー構想 (平成 28 年 2 月)

伊那谷交流圏の形成

- I 国際空港へ 1 時間でアクセスするグローバルな活動拠点～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド～ここでふれあう～
 - 広域観光ルートづくり
 - 体験型観光の推進
 - 外国人旅行者の誘致
 - 豊かな自然と実績を活かした国際交流
 - ・国の内外から様々な会議を誘致するなど、国際交流を推進

飯田市

リニア駅周辺整備基本計画 (平成 29 年 6 月)

リニアによるまちづくり戦略

リニアの整備効果を広く波及させるため、「地域に息づく文化・歴史・自然」と「高度な都市空間」との対流を促進する「田園型の学術研究都市づくり」を進め、知の創発拠点をつなぐナレッジリンクの一翼を担うまちづくりに取り組む。

- 自然と歴史を守り、活かし、新たな文化をつくる**
 - ・国際大会が開催できるスポーツ施設整備
 - ・南信州の温泉を活かし、スポーツの国際大会や一流アスリートの合宿の誘致
- 人の流れをつくる**
 - ・広域観光周遊ルートの作成
 - ・国際レベルの会議を開催できるコンベンション施設整備
 - ・国際会議や企業研修など MICE の誘致